第６学年○組　音楽科学習誘導案

教諭　藤野　剛

単元　心をこめて表現しよう

（本校教育課程　音楽科単元　第７項　２月上旬～２月下旬　５時間）

|  |
| --- |
| 「単元の問題」を提起する根拠 |
| ○　子どもの興味・関心の実態  　本学級の子どもは，３月に卒業式を迎える。その卒業式に向けて「卒業式実行委員会」や「卒業プロジェクト」を立ち上げ，卒業に向けての思いを高め始めている。そこで，これまで各学年で作成してきた学びのあしあとや６年生の思い出の写真を掲示して，小学校生活をふり返ったり，昨年の卒業式の映像を鑑賞し，卒業式へのイメージを膨らませたりする活動を行った。すると，子どもたちは，卒業式で「お世話になった方々に感謝の気持ちを表したい。」「お世話になった人に，成長した姿を見せたい。」「みんなで過ごす最後の日を，何年たっても思い出になるような特別な日にしたい。」という思いをもった。そのような子どもたちに，卒業式で歌う楽曲について話し合う場を設けた。すると「自分たちの気持ちや思いを表せるような歌詞の曲がいい。」「会場中を歌声で響かせることができるようなきれいな曲がいい。」「未来に向かってがんばっていこうという思いを表せる力強い曲がいい。」などと発言する姿が見られ，卒業式で歌う楽曲の曲想や歌詞に対する関心が高まっている。  ○　子どもの能力の実態  本学級の子どもは，情意面では，演奏会で歌う曲を生活の中で口ずさむ姿やよりよい表現を目指して歌い方を工夫しようとしている姿など，主体的に音楽に関わることができる。また「きれいな歌声を響かせたい。」と響きのある歌声で歌おうとする意欲も高まってきている。知識面では，曲想を様々な「音楽を形づくっている要素」や「歌詞の内容」と関わらせながら捉えることの大切さを理解できるようになってきている。しかし，曲想と歌詞の内容との関わりについて，実際に結びつけるところまでには至っていない。技能面では，範唱を聴いたり，楽譜を見たりして歌うことができる。また，斉唱や部分的に声部が重なるような，簡単な合唱についても声を合わせて歌うことができる。しかし，呼吸や発音の仕方に気を付けて響きのある歌い方で歌うことや各声部の歌声や全体の響きを聴いて声を合わせて歌うことについては，個人差があり，課題をもつ子どもも多い。認知面では，範唱を聴いたり，歌詞を読んだりして感じ取った楽曲の特徴にふさわしい表現をつくりだそうと，歌い方の工夫を考えることができる。しかし，その考えを具体的に表現するための「何をどのようにすればよいのか。」という具体的なポイントの認識は不十分である。  ○　社会からの要請  学校教育には，他者と協働して課題を解決していくことや様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことが求められている。そのためには，一人一人が自分なりの考えをもち，他者と協働しながら，その考えを表現していくことが大切である。よって，様々な曲の感じを歌詞や音楽を形づくっている要素から特徴を感じ取り，他者と協働しながら歌い方を工夫したり，繰り返し試行錯誤しながら歌い方を工夫したりすることは，これからの社会を生き抜いていく上で，また，音楽表現への考えや思いを育む上で意義深いと考える。  ○　教科系統上の要求  　低学年では，歌詞の表す情景や気持ちを想像したり，楽曲の気分を感じ取ったりし，思いをもって歌い，中学年では，曲想にふさわしい表現を工夫して，思いや意図をもって歌うことに取り組んでいる。第５学年では，一つ一つの言葉の意味を理解して歌ったり，歌詞のもつリズムや言葉の抑揚に気をつけながら気持ちを込めて歌ったりすることに取り組んでいる。第６学年では，自分の思いや意図が聞き手に明確に伝わる歌唱の表現を工夫する。そして，自らの感性や創造性を発揮しながら，自分にとって価値のある歌唱表現をするという活動に取り組む。このことは，中学校の曲種に応じた発声により，言葉の特性を生かして歌う学習へと発展する。 |

|  |
| --- |
| 単　元　の　問　題 |
| 卒業式で未来への希望やお世話になった方々への感謝の気持ちを表すために心をこめて歌おう。  ○　曲を聴いたり，歌詞を読んだりして曲の特徴をつかみ，主旋律や副旋律の音取りをしよう。  ○　歌詞や曲想の内容との関わりを考えながら，曲想に合う歌い方で二部合唱をしよう。  ○　卒業式に向けて歌詞や曲の特徴を生かしながら心をこめて歌い，自分たちの表現をふり返ろう。 |
| 目　標 |
| ＜知識及び技能＞  ○　歌詞の内容や曲想を生かした表現で歌うことができる。  ＜思考力，判断力，表現力等＞  ○　旋律の特徴や音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，歌詞の内容や曲想を生かした歌い方を工夫し，どのように歌うかについて，自分の思いや意図をもつことができる。  ＜主体的に学習に取り組む態度＞  ○　歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心をもち，思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 |

|  |
| --- |
| 誘　導　の　着　眼 |
| 【着眼１】　思いや意図を明確化する活動と試しの活動を位置づけた学習材  　（１）　曲や曲の特徴にふさわしい表現を工夫することに対する思いを高める種まき  子どもが表現欲求や目的をもつことができるように，これまで各学年で作成してきた学びのあしあとや６年生の思い出の写真を掲示して，小学校生活をふり返ったり，昨年の卒業式の映像を鑑賞し，卒業式へのイメージを膨らませたりする活動を設定する。また，「工夫して歌って，卒業式で未来への希望やお世話になった方々への感謝の気持ちを表せるように心をこめて歌いたい。」という思いを高め，歌詞や曲想に合う歌い方を何度も試しながら工夫できるように，以下の４つの観点（①楽曲のもつ特徴が学習内容に適しているもの②子どもの能力に適しているもの③歌詞の内容から身近な生活や行事と結び付けることができるもの④表現を工夫する余地が十分にあるもの）を基に複数選曲し，その中から子どもたちが選曲する場を設定する。この度，子どもたちの選曲の結果，楽曲は「旅立ちの日に」に決定した。  （２）　思いや意図を明確化する活動と試しの活動を位置づけた単元構想（※　次のページ参照）  　思いや意図をもって歌唱することができるように，思いや意図を明確化する活動と試しの活動の  二つの活動を各段階において，以下の通り位置づける。   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | |  | 導入段階 | 展開段階 | 終末段階 | | 思いや意図を  明確化する  活動のねらいと具体的な活動 | 「旅立ちの日に」の全体的な特徴を感じ取り，個の思いや意図を確認することができるように歌詞を朗読したり，曲を聴いたりする場を設定する。 | 作詞者や作曲者の思いや意図を知り，自分の表現に生かすことができるように，「旅立ちの日に」の奇蹟を収録されたＤＶＤの鑑賞をする場を設定する。個の考えを可視化することができるように，一人一人に楽譜入りのワークシートを配布し，考えを記入する活動を設定する。また，グループ内における具体的な歌唱表現の工夫を可視化することができるように，拡大楽譜や拡大歌詞を準備し，考えを出し合う活動を設定する。 | グループごとの考えの確認を行うことができるように，グループ活動で活用した，拡大歌詞や拡大楽譜を掲示し，掲示を見ながらグループごとの歌唱表現を聴き合う活動を設定する。 | | 試しの活動 | 曲全体の感じをつかむことができるように，簡単な音取りの活動後に試しの活動を設定する。 | グループで工夫し，練り合いながら，歌唱表現を作ることができるように，思いや意図を可視化した拡大楽譜や拡大歌詞を基に，試しの活動を設定する。 | 全体で工夫し，練り合いながら，歌唱表現を作ることができるように，各グループで活用した拡大楽譜や拡大歌詞を基に，試しの活動を設定する。 |   【着眼２】　思いや意図を明確化する活動と試しの活動を繰り返しながら，思いや意図をもって歌唱するしかけづくり  思いや意図を明確化する活動と試しの活動を繰り返しながら，思いや意図をもって歌唱することができるように，学びのプロセスに沿って，以下のような手だてを講じる。  【　かかわり　】  【　対峙　】  「旅立ちの日に」の曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについてグループごとに思いや意図をもち，歌唱表現を練り合うことができるように，思いや意図を明確化し，試しの活動を行いながら歌唱表現を比較して，どの歌唱表現がよいかを選択する活動を設定する。  　「卒業式」で思いを表すことができるように，録音機器を活用し，以前の自分の音楽表現と現在の自分の音楽表現を聴き比べ，自己の表現を吟味・検討したり，再び試しの活動の場を設定したりする。  　「卒業式」で思いを表すことができるように，グループごとに考えた歌唱表現を聴き合う活動を行い，自他の表現のよさを話し合う活動を設定したり，速さや強弱などの音楽表現の異なるモデル演奏を提示し聴き比べたりする活動を設定する。  【着眼３】　歌唱表現についての知識や技能に視点を当てた教育的瞬間の見とりと対応  　思いや意図をもって歌唱することができるように，出合う段階で音程が合わないなどの技能的に支援が必要な子どもは，ピアノの側に並ぶなどの並びの配置を換えたり，全体で音程の確認をする活動を設定したりする。試す・工夫する段階で，具体的な工夫や改善点が浮かばない子どもには，これまでの知識や経験を想起することができるように，音楽を形づくっている要素などを確認することができる掲示物を提示する。また，グループ活動で，他の声部につられて，自分の声部を正しく歌えない子どもには，グループ内の音程が安定している子どもの間に並ばせたり，オルガンによるリード演奏をしながら歌ったりするなどの技能の支援を行う。味わう段階では，自分の演奏のよさに気付くことができていない子どもには，歌唱表現が豊かになったことを価値付け，全体で共有する場を設定する。 |

【着眼１】（２）思いや意図を明確化する活動と試しの活動を位置づけた単元構想（総時間数５時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | 教師の手だて | 予想される子どもの反応 | 評価の規準と観点 |
| **出合う** | １　本単元を設定し，学習計画を立てる。　　１  中心問題　卒業式で未来への希望やお世話になった方々への感謝の気持ちを  表すために心をこめて歌おう。 | 〇　種まきを受けて「卒業式」で歌う曲が「旅立ちの日に」に決定したことを伝え，楽曲「いのちの歌」の歌詞を朗読したり，曲を聴いたりする場を設定する。  〇　楽曲「旅立ちの日に」をどのように歌っていきたいかを問う。 | 〇　「歌詞に卒業する自分たちの気持ちや思いが表れているね。」  ○　「会場中を歌声で響かせることができる，きれいな曲だね。」  ○　「未来に向かってがんばっていこうという強い気持ちが表れているね。」  〇　「歌詞の内容や曲想を考え，それを生かして歌いたいです。  ○　卒業式で未来への希望やお世話になった方々への感謝の気持ちを表せるように心をこめて歌いたいです。  〇　みんなで歌う最後の曲だから，思い出になるように，みんなの思いをこめて歌いたいです。 | 〇　歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心をもち，曲想に合う歌い方で歌うことに向かうための学習計画を話し合っている。  （主体的に学習に取り組む態度） |
| **試す・工夫する** | ２　楽曲の特徴をつかみ，主旋律や副旋律を歌う。　　　１ | ○　話合いで出た意見を整理して，主旋律や副旋律の音取りの活動を設定する。  ○　歌詞を朗読したり，曲を聴いたりして感じたことや気がついたことを話し合う場を設定する。 | 分析問題１　曲を聴いたり，歌詞を読んだりして曲の特徴をつかみ，主旋律や  副旋律の音取りをしよう。  〇　「『飛び立とう未来信じて』『この広い大空に』という歌詞は，未来への希望がつまっているので，思いをこめて歌いたいと思いました。」  ○　「曲の前半と後半で曲の感じが変わることに気がつきました。曲の感じに合うように歌い方も工夫したいです。 | 〇　歌詞の内容や曲の特徴に気付いたり，音程やリズムに気を付けて主旋律や副旋律を歌ったりしている。  （知識・技能） |
| ３　曲想に合う歌い方で二部合唱をしよう。  ＜本時２／２＞２ | 分析問題２　歌詞や曲想の内容との関わりを考えながら，曲想に合う  歌い方で二部合唱をしよう。  ○　旋律の重なり方の違いに気付いたり，具体的な表現の工夫を書き込むことができるように，拡大楽譜を準備し，気が付いたことや思ったことを書き込む場を設定する。  ○　歌詞の中で大切に歌いたい言葉を共有することができるように，拡大歌詞を使って確認する活動を設定する。 | 〇　音の重なり方が，同じ音，違う音，ハミングの３つのパターンがありました。それぞれの重なり方によさや面白さがありました。  〇　「今別れの時～大空に」までが，とても大切だと思いました。特に最後の「大空に」は，しっかりと歌うとよいと思います。 | 〇　旋律の特徴や音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，歌詞の内容や曲想を生かした歌い方を工夫し，どのように歌うかについて，自分の思いや意図をもっている。  （思考・判断・表現） |
| 味わう | 分析問題３　卒業式に向けて歌詞や曲の特徴を生かしながら心をこめて  歌い，自分たちの表現をふり返ろう。  ４　本単元をふり返る。　　１ | ○　「６年生を送る会」での二部合唱を録音し，自分たちの歌い方について学習をふり返る場を設定する。 | 〇　旋律の重なり方の違いによるよさや面白さを感じたり，歌詞や曲想に合う歌い方を工夫したりすることができてよかったです。  ○　これまでの学習を生かして，卒業式では，心をこめて歌いたいです。 | ○　歌詞の内容や曲想を生かした表現で歌っている。  （知識・技能） |

公開授業Ⅱ（音楽科） 令和元年○月○日（○）10：00～10：45　 　　　於：音楽科室

（１）主眼

歌詞の内容や旋律の重なり方の特徴，作詞者や作曲者の思いから強弱や速さ，声の感じを工夫する活動を通して，楽曲の前半と後半の曲想の違いや歌唱表現を工夫することのよさに気付き，後半部分の曲想にふさわしい歌い方で二部合唱をすることができるようにする。

（２）本時における学びに没頭する子どもの姿

卒業式に向けて，楽曲「旅立ちの日に」をより豊かな表現にしたいという思いをもち，歌詞の内容や旋律の重なり方の特徴，作詞者や作曲者の思いから曲想に合う歌い方になっているかを吟味し，試行錯誤しながら強弱や速さ，声の感じを工夫している姿。

（３）準備

拡大歌詞，拡大楽譜，録音機器

（４）展開

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動と子どもの意識 | 誘導上の留意点（○）と評価（※） |
| １　本時の学習のめあてを確かめる。    前の時間に，前半部分の歌い方を工夫して，曲想に合う歌い方で二部合唱しました。今日は，後半部分の歌い方を工夫して，曲想に合う歌い方ができるように，歌い方の工夫を考えて歌いたいです。  後半部分の歌い方を工夫して，思いをこめて二部合唱をしよう。  ２　歌詞や曲想に合う歌い方を工夫して歌う。  ※楽譜の画像  ３　曲の前半と後半のつなぎの部分が自然な感じになるように，歌い方を工夫する。    　後半部分を練習しているときには気付かなかったけど，前半部分の語りかけるような歌い方から急に力強く歌うと曲の感じに合わなかったので，つなぎの部分を後半に向かって大きくしていくといいと思います。  ４　楽曲を通して歌って本時の学習をふり返り，次時の学習について話し合う。    後半の掛け合いの部分から最後の部分に向かって，迫っていくような感じを出せるように，だんだんと大きくしたり，前半部分よりも速くしたりして，盛り上げることができました。前半と後半のつなぎ方も曲想に合わせて工夫することができたので，次回は，最後の部分を工夫して完成させたいです。 | ○　小学校生活をふり返り，卒業への思いを高め，歌唱表現の工夫に繋げることができるように，これまでの学校生活の写真を掲示する。  ○　各声部の音を確認することができるように，拡大楽譜を掲示し，パートごとに音の確認をする活動を設定する。  ○　曲の後半部分の歌詞や曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるように，前時までに比較した前半と後半部分の歌詞や曲想の違いをまとめたものを掲示する。  四角の部分は，掛け合い後に  ぴったりと重なっているから，  声をそろえて力強く歌うといいと  思う。  点線に向かってどんどん思いが  高まっていくように，全体的に  速さを速くしていくといいと  思います。  丸で囲まれた旋律は，掛け合いに  なっているね。掛け合いが続いている  ところは，点線に向かってどんどん  思いが高まっていく感じだから，  だんだんと大きくしていくといいと  思うよ。        ○　思いや意図を明確化したり，グループ内で考えを共有したりすることができるように，グループごとに拡大楽譜を準備し，書き込みながら工夫する活動を設定する。  ○　曲想の違う前半と後半の歌唱表現が，自然な感じで繋がるように，強弱や速さを視点に，何度も歌い試しながら，表現を決定する活動を設定する  ※　歌詞の内容や旋律の重なり方の特徴，作曲者や作詞者の思いを感じ取りながら，後半部分の歌詞や曲想にふさわしい歌い方を工夫している。　　　（思考・判断・表現）  ○　歌声を確かめることがきるように，録音機器を準備し，録音したり，聴いたりする活動を設定する。 |